

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/08/31 ～2017/09/30)

1. 勉学の状況

所属は人文学部民族誌学科ということで、自分の専攻（文化人類学）とかなり近いが、やっていることには結構違いがある。学科での受け入れ担当してくれている教員と、トルコからの留学生との個人的なレッスンをほぼ毎日受けている。その使用言語は英語。ほかには英語で開講されている授業をいくつか受けながら、ハンガリー語での授業も参加している。正直なところ、ハンガリー語は一応1年以上勉強し文法事項は身に着けたとはいえ、ネイティブの話す専門的な話は難しい。大学が無料で開催している語学コースにも参加し（これはかなり初心者向けだったため、交渉しテストを受けることで上のレベルに上げてもらった）、聞き取りと会話の練習を続けることにした。

また、今回の留学は授業を受けること以上に自分の卒論のためのデータ集めという目的があり、そのことをできればよいと思っている。テーマとしてはハンガリーに暮らすジプシーのネーション形成といった感じである。事前授業で書いた研究計画書を指導教員に見せると「君は授業を受ける必要はない。我々もフィールドでの調査を大事にしているから、君も行ったほうが良い。知り合いにジプシー研究者がいるから彼と会って話をしたらいい。」という何とも幸運なことがあったので、その研究者と会って話をした。彼によるとこのテーマは難しいかもしれないが、ハンガリー語を流暢に話せるようになったら、一緒にジプシーの村に行けるとのことだった。彼がくれた文献を読みながら、知識の収集と研究計画の再構築を行っている。先の指導教員も、親戚がジプシーの農民と仲がいいから会ってみるか、などと提案してくれるなど常に卒論のサポートしてくれる。これだけでも来た甲斐があったように思う。



大学のメインキャンパス。荘厳ながらも学生たちの活気がある。

2. 生活の状況

自分は協定校間の交換留学ということで来ているのだが、おそらく英語での授業も受けるためか ERASMUS+（基本的には EU 内での留学制度）と同じくくりで学生生活を送ることになっているらしい。これが実は結構便利で、現地の学生がバディとして留学生についてくれて生活面ほか（各種手続き、困ったこと）の支援をしてくれたり、ERASMUS+の学生団体が様々なイベント（オリエンテーションから小旅行、飲み会まで）の企画をしてくれたりするので、助かっている。おかげで他の国から来た留学生たちとも交流ができています。同じ時期にハンガリーに来た留学生として話が盛り上がるし、不安もかなり軽減される。ハンガリー人の学生と知り合う機会が少なくなってしまうのはやや難点だが。

泊まっているのは工事が終わったばかりの寮で、フィンランドから来た留学生との2人部屋である。キャンパス内にあって、教室まで徒歩5分の好立地である。別の棟にはパブがあり、食品店も歩いて10分くらいの距離にあるため、生活は何不自由ない。週に2回くらいにはトラム（路面電車）で15分くらいの街の中心街に行き、買い物をしたり飲みに行ったりする。デブレツェンはハンガリー第二の都市で、そこまで大きくないながらも歴史のある教会やショッピングモールなどがあってなかなか面白い。デブレツェンには何もないという人もいるがそんなことはない。何だってある。1年に限らずいつまででも暮らせそうだ。



デブレツェンの中心街。ヨーロッパならではの雰囲気のある建物の間をトラム（路面電車）が走る。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/01 ～2017/10/31)

1. 勉学の状況

英語で受けている授業はフロイトから始まりデリダ、ドゥルーズなどの思想までを一回の授業につき一人扱うというもので、非常に面白い。もちろん、思想のすべてが紹介され、自分もすべてを理解できるわけではないが、これまで耳にしてきた思想家を英語で学ぶことができるという経験は自分にとってとても有意義なものである。しかし、専門用語を英語で言われると、日本語では知っているものでもはじめは分からないので多少の困難がある。そのようなときでも、日本にいたときに学んだ知識から推測してそれを補う。まがいなりにも日本で本を読み、勉強していたことが役に立っている。この知識は授業に限らず、友人と少し専門的な話をするということにも役に立っている。

指導教員の提案で、少し離れた教育学部のキャンパスで行われているハンガリーの歴史、文化に関する授業にも参加することになった。そこまではバスに乗り 30 分ほど郊外を抜けて、ようやく着く。これまでハンガリーの歴史や文化についてちゃんと教わったことはなかったので、少しだけでもハンガリーについて理解できるようになった。これもまた、ハンガリーについて話すときに役に立っている。例えば 10 月 23 日は革命記念日で祝日なのだが、これはソ連に対抗した 1956 年革命を示している、ということを知っているともっと深い話ができる。実はこれはオフィシャルには「革命」ではなく、「反革命 counter revolution」である(ロシア革命が「革命」であり、それを覆そうというのは「反革命」であるという主張)とか、この祝日は数年前に制定されたばかりであるとかである。今ハンガリーで起きていること、人びとが考えていることを知ることの助けになっており、またこれらは自分にとって興味深い。

また、指導教員が私の卒業研究(ハンガリー・ジプシーについて)のために色々と機会を作ってくれている。この前は、指導教員の親戚でデブレツェンから電車で 1 時間半ほど行ったところにある小さな田舎町に住んでいる人の家に泊めさせてもらって、ちょっとしたフィールドトリップをした。村長へのインタビューとその知り合いのジプシーの家を見せてもらうことができた。今まで直接ジプシーと会う機会がなかったので、このような形で安全に研究のための情報が集められたことはよかった。また、ジプシーではない人によるジプシーに対する意見が聞けたことは興味深かった。もちろん一日のインタビューですべてを知ることはできないが、自分の研究の方向性を考えるうえで大いに充実した経験だった。

2. 生活の状況

生活には十分に慣れて不自由することは特にはない。友人同士の紹介でさらに新しい友人ができるなど交友関係が広がっている。自分はそのままで積極的に何かをするほうではないので、友人が食事に誘ってくれたり小旅行を企画してくれたりすることで新しい経験をすることができる。



フィールドトリップで行った田舎町の通り。



フィールドトリップでお世話になった人の畑。ハンガリーらしく平地が続く。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/01 ～2017/11/30)

1. 勉学の状況

授業はこれといって変化があるわけではなく、毎日淡々と大学に通っている。特筆すべきでもないが、今月は大学でフィンランド建国 100 周年のイベントがあり指導教員の勧めで講演会に参加した。こちらで所属になっている民族誌の分野の中では著名らしいフィンランドの民話研究の学者数人が交代に話をするというものだったが、話を聞いているのは自分とクラスメートのトルコからの留学生を含めて 4 人ほどというごく小さなイベントだった。フィンランド学科がある大学であるがこの分野に関心がある学生はいないようだ。実際自分も専門とは違うし、途中参加で内容がすなりと入ってこなかったせいもあるが、特に面白かったわけではない。指導教員は熱心に写真を撮るなどして楽しんでた様子だったが…。一つよかったことがあるとするならば色々なことを研究している人がいて、英語であれば全く別の分野の人や他の国の人ともコミュニケーションできるということを実感できたことだろうか。

自分の研究に関しては、たまたま友人に誘われて参加したサンクスギビングのイベントで友人のクラスメートと話す機会があつて、その人の同僚 (人文地理学) がハンガリーのジプシーに関して研究しているというので今度会いに行くことになった。自分の関心がある程度定まっているとひょんなことからコネクションを得ることができる。これだけはやはりこちらに来ないとできないことだろう。

2. 生活の状況

今月は日本から友人が来て一週間ほど滞在し、ハンガリー国内で小旅行などをした。ミシュコルツというここから電車で 3 時間くらいの街に行き温泉に入ったりした。ハンガリーには温泉があるのである。温泉といっても大きな温水プールのような感じで体を温めて休むというよりはレジャーとして楽しみに来るといった雰囲気だった。別料金でサウナに入ったが、これは結構充実していて普段運動を全くしない自分にとっては汗をかくいい機会になった。

また、今まで ERASMUS のバディとの都合でなかなか行けてなかった在留許可を申請しにいった。書類の不備があり後日再提出となったが、これもどうにかクリアした。しかし、月末になってもまだ在留カードが送られてこない。事務手続きはどこの国でも時間がかかるものだ。

街の様子はといえば、日が暮れるのが早くなり午後 4 時には外は暗い。また曇りや雨の天気が続くなど少し嫌になるが、部屋の中は暖かいので日本のように心身ともに凍えることはない。中心街にはクリスマスマーケットがオープンし置物やお茶を売る店、ハンガリー料理やホットワインを出す店が毎日営業し、きらきらと光る観覧車が回っている。



ミシュコルツの洞窟温泉。天然の洞窟を利用している。



中心街のクリスマスマーケット。もう少しするとトラムもライトアップさせるらしい。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/01 ～2017/12/31)

1. 勉学の状況

12月1日には聴講で参加している教育学部系の授業の教員（ジプシーを研究する人類学者）と授業のグループで、デブレツェンから車で1時間半ほどの村へフィールドトリップへ行った。その村では全人口の約40%がジプシーで、特にジプシーは子どもが多いため訪問した小学校の児童では70%ほどがジプシーの出身であるという。授業中のクラスに顔を出すとその小学校が続けているドイツ語教育の表れで「グーテン・ターグ」と挨拶をしてくれたが、中にはアニメなどで知ったのか「こんにちは」と日本語で挨拶をしてくれた子どももいて驚いた。フィールドトリップ自体は3、4時間ほどの短いものであったが、自分との専門が違う視点で同じような対象を見るという経験は興味深く、また貴重な現地での実地的な体験は卒業論文のための新しい視座を与えてくれたように思う。

また、今月は11月に友人の紹介で知り合った人文地理学のジプシー研究者の研究室に訪問した。関連する書籍を数冊もらったのと有用な情報が載っているウェブサイトを教えてくれ、また今後行う予定のフィールドワークに参加してもよいとのこと、ジプシー自治政府のキーパーソンへのインタビューをオーガナイズしてくれるとのことであった。このようなことはやはりこちらへ来なければなかったものであるので留学の甲斐があったと思う。後期はこのようなコネクションを生かしてより実地的な調査をしていきたい。

2. 生活の状況

12月の初めのある朝、起きてカーテンを開けると一面が雪に覆われていた。近くに大きな公園があるので様子を見に散歩した。ハンガリーで暮らす人にとっても初雪は嬉しいのか写真を撮るカップルの姿が見られた。また友人の留学生たちもSNSで雪を前にはしゃぐ様子をアップしていた。ハンガリー人の友達に「寒いね」というと「まだまだだよ。一月二月はこんなもんじゃないよ。」というので少し憂鬱になりながらも、そんな冬もあっていいかもしれないと思った。

クリスマスの前にはERASMUSのFarewell Dinnerが開催された。こちらに来ていたほとんどの学生は半年で帰ってしまうのでそのためのお別れ会だ。一学期はあっという間だと感じたのと、この学期で何ができたのだろうかと思いついた。もう少し色々な面（言語、授業、交友関係…）で頑張るべきだったと反省したので来学期はこの反省を生かせればいい。フィンランドからのルームメイトは自分と同じくあと半年いるが、クリスマスで2か月ほど実家へ帰るらしいのでハンガリーの蒸留酒パーリンカで乾杯しながらお別れの挨拶をした。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/01/01 ～2017/1/31)

1. 勉学の状況

1 月はテスト期間であるため授業はなかった。千葉大学とはテストのシステムが異なるため、ハンガリー人やハンガリー語ができるフィンランド人のルームメイトの助けを借りながら登録を行い受けた。まず困ったことは(所属学部にもよるかもしれないが)テストの日程が授業などで発表されなかったこと。これは同じ授業を受けているハンガリー人の友人も分からないと言っていた。最後の授業が終わり、何も連絡がないまま3週間ほど経ったときに大学の受講管理サイト(千葉大学でいうところの Campus Squire)である Neptun にテストの日程が急に出た。日程は3週間にわたってあったが、それは自分にとって都合のよい日時を選べばよい。受けていた授業はオムニバス形式で薄く広くというタイプであったのでどのように勉強すればよいか分からなかったが、学部のサイトに「テストのためのマテリアル」があり授業で使ったスライドの半分ほども掲載されていたのでそれらとノートを見ながら勉強した。テスト当日、問題を見ると記述式が5問、具体的というよりは考え方を問うような問題(これは千葉大学で受けていた授業のテストでも同様であるが、より短い問題文で問われていた)であり、教員もラフに「あんまり長く書かないでね。何百人も読まないといけないから。」とか言いながらテストが始まった。英語で受けるテストは初めてであったためどのように答えるのが良いか分からなかったができる限りの回答は書いたつもりだった。テストから2週間ほどたったのちに Neptun をのぞいてみると結果が出ていて2 (Pass)、クリアはしたが点数はよくなかったようである。千葉大学ではこのような評定はほとんどとらないので残念だったが、まあ通過はしたからよいか。ちなみにそのあとに受講生向けに Neptun からメールが来て「テストをパスできなかった人や点数をあげたい人にはラストチャンスがあります」との内容だったが別用あったためそれは受けなかった。

2. 生活の状況

先述の通り1月はほとんど授業がなかったため旅行をした。行く予定の場所からきた留学生の友達にお勧めの場所などを聞きながら予定を立てた。これもまた留学生としてヨーロッパにきたことの楽しみの一つであろう。こちらの学生は日本の学生と比べてよく旅行している。SNSなどでつながっていると色々な場所の風景が見られて面白い。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/02/01 ～2018/2/28)

1. 勉学の状況

新学期が2月から始まった。第一週は登録期間で、第二週は登録変更と授業の初週。帰国していたルームメイトや長期間の旅行をしていた留学生仲間とも再開した。彼らは自分と比べると多くの授業を取っているが、自分はそのまで単位を取得する必要がないため、あまり授業を取っていない。留学開始前に計画をしていた Learning Agreement に記入した授業も変更した。単位がそこまで必要とはならないという場合、どのように自分で自分の勉強を行っていくのかということを考えなければならない。興味のない授業を英語で受けても、もちろん英語の勉強にもなっているのかもしれないが、自分の興味のある分野を自習することのほうが有用に思えたのであまり受けないことにした。自由な時間が沢山あるため、それをどのようにして自分で活用していくのかということを考えなければならない。そして、前期にもましてこの留学の最も大きな目的であるフィールドワークをもっとやらなければならない。前期でできたコネクションを活用してアプライをしているところである。同時並行で履修している言語コースは初級レベルを超えたために Erasmus からの補助がでないため、一学期あたり 65,000HUF (日本円で3万円くらい)を払わなければならないとのことであったが、Erasmus のオフィスと言語コースのオフィスの間で連絡のやり取りがあったらしく、最終的には払わなくてよいことになった。「学ぶ」ということには非常に好意的に対処してくれるのかもしれない。

2. 生活の状況

ニュースにもなっているようにヨーロッパには寒波が来ていて、2月下旬は毎日氷点下、2日に一回は雪が降るといような状態でとにかく寒い。しかし部屋の中は廊下等も含めて常に暖房が適温に効いているため日本でのアパート暮らし、極寒の千葉大学キャンパスよりも快適である(笑)。もちろん夏も含めての気候が住居の設計に影響しているのだろうが、日本よりも寒い季節に心地よく暮らすという術を身につけているように思う。

Erasmus の学生の半分以上は半年以下であるため、沢山の知り合いが帰国してしまった。だがヨーロッパやアジアを中心に多くの友人ができたため、近いうちに旅行を訪ねることが出来ればいい。ルームメイトを含め、同じフロアに住むスペインからの明るい留学生たちも自分と同様にもう一学期こちらにいますので、自分としては安心感がある。新しく来た留学生もまた前期とは趣が違ふように思えたりと面白い。生活や雰囲気慣れたため、今学期はもう少し社交的に振る舞うことを心掛けたいと思っている。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/03/01 ～2017/3/31 デブレツェン大学)

1. 勉学の状況

授業は特に変わらない。言語コースは割とハードで教師も授業中はほぼハンガリー語のみで教える。そのせいでそのあとに英語を話すときまるで母語のように感じる。ちなみに最近この授業を担当する教師の息子(7歳くらい?)が教室内で待つようになった。おとなしい子だが、たまに暇になるらしくうろうろしている。しかし教師も生徒もあまり気にしないし、教師もたまに息子に「これ黒板に書いて」とタスクを与えると息子も誇らしげに書く。日本では想像ができないが、このような家族に優しく皆がリラックスした状態で授業が行われるフレキシブルな考え方はいいもので、自分自身もこちらに来てそれが身についたような気がする。

2月には Japan Nap (日本の日) というイベントが大学のメインフロアであって、空手の披露や折り紙・書道体験などが行われていた。自分もトルコからのクラスメートと様子を見に行くと、こちらの大学で日本語を学んでいるハンガリー人が多いことに驚かされた。そのうちの数人と連絡先を交換したため、今度日本語とハンガリー語のタンデムパートナーになろうという話をした。

こちらに来た本来の目的であるジプシーのフィールド調査だが、思っていたよりも進んでいなかったが、4か月ぶりくらいに以前出会った人文地理学のジプシー研究者から連絡が来て、ジプシーを支援する NGO の代表とコンタクトを取ることが出来た。緊張する中インタビューに向かったが、とても気さくな方で色々と話を聞かせてくれた。今後も調査を継続したい旨を伝えると、いつでも来たらいいよと言ってくれたため、調査も進みそうである。同時に、自分自身 NGO の何かの力になればよりいいであろうと考えている。

2. 生活の状況

3月中旬まで雪が降りハンガリー人の友人も「こんなのはじめて」というほど長い冬だった。3月下旬になってようやく暖かい日が続く、雪が解け道端には花が咲き始めた。それと重なるようにイースターの休みが訪れた。授業の有無自体は割と学科や教員に拠っているらしく、祝日を以外は授業のある学生とない学生の両方がいるようだ。イースターはこちらではかなり重要な行事らしく、ハンガリー人の友人はおそらく全員実家に帰って家族と過ごしていて、断食後の肉食をしたとの話も聞いた。一方で我々留学生は暇を持て余すので、ルームメイトと留学生イベントでボルダリングに行った。初めて会う人ばかりだったが、壁を上る際のパートナーになることで自然と仲良くなった学生もいて参加してよかった。また、もともと日本でも運動をするタイプではなかったが、こちらでは自転車に乗る機会もないためさらに身体が怠っていると実感した。その後、友人とジムに通おうという話になったため運動も心掛けたい。春にもなったわけだし。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/04/01 ～2017/4/30 デブレツェン大学)

1. 勉学の状況

ハンガリー語の語学コースは難しく、終わるとどっと疲れる。ハンガリー語で表現できないことを英語で説明するときまるで英語が母語のように感じる。これに加えて、日本語を勉強していて良い友人でもあるハンガリー人と会話の練習を週一回やることにした。ハンガリー語の勉強になるとともに、普段めったに話さない日本語を話すのはリラックスになる。

以前に書いた通り、授業はあまりとっていないため、時間に余裕がある。卒業論文のために先行文献の読み込み、および人類学一般的な理論、人類学の中での関心のある論文を日本語、英語で読むということをしている。ヨーロッパでの大学院進学を考え始めたこともあり、英語で専門的な論文を読む練習、メモを英語で取る練習が自らのためになると考えたためである。

留学に来てよかったと思うことの一つに「現実的なものとしての選択肢」が広がったというのがある。具体的には先述の通り、ヨーロッパでの大学院進学についてである。もちろん日本にいるとき教員との雑談や外部ゼミでの研究者との交流の際「海外の大学院っていう選択肢もあるから」と言われたことがあったが、そこに上がるのはアメリカ、イギリスの有名大学ばかりだったこともあり、自分からは遠いことのように感じていた。しかし、こちらの大学に来て色々な国から来た学生が色々な方法で勉強していることを目の当たりにし、自分にも同じように選択肢があることに気が付いた。インターネットで調べてみると日本の大学院よりも学費も安ければ奨学金も充実しているため、むしろ自分にとって都合がいいのかもしれない、などと思えるようになった。これはやはりこちらに留学したからこそである。

2. 生活の状況

4月になったばかりだというのに、しっかりと暑く 25°C くらい。祝日には友人の家を訪ねてサイクリングしたりと、冬の終わり春の始まりを満喫している。暖かくなったからなのか、イースターが終わったからなのか、両方なのか分からないが毎週のようにどこかで屋外イベントが行われている。メインの広場に出店が並んだり、大学の隣の公園で歌とダンス、クラフトビールの売店が出たりと楽しい。だからと言って、そこにいる皆が気の狂ったように飲み食いをするのではなく、自宅から持ってきたビールを片手にただ芝生に座っているだけという人もたくさんいる。何につけても自由で気を張らず、お金もあまり使わないけど場を楽しむという人びとの生き方が羨ましく思った。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/05/01 ～2017/5/31 デブレツェン大学)

1. 勉学の状況

ハンガリー語の言語コースは5月の第二週にテストがあって終了した。テストは事前にどのような種類の問題が出るのかを教えてくれるもので難しくはなかったが、点数が100点満点中97点で教師に「君は文法が本当によくできるね。」と褒められた。しかし、クラスの中では会話が最もできないうちの一人だったため、文法的知識と会話の能力は比例しないのだとつくづく思った。教師は友達と少しの時間だけでもハンガリー語で会話をするようにとアドバイスをしてくれた。残りの時間は自分の研究のためのハンガリー語翻訳と会話が続けていきたい、と思っているがなかなか研究のための先行研究読み込みが多く時間が取れない。しかし心掛けたい。

一般の授業はテスト期間のための終わり始めているようだが、自分の出席しているインフォーマルな感じの授業は引き続きある。とはいえ教員が忙しいため毎日あるわけではない。

このように今月からは特に時間があるため、今まで通り自分の卒論のための研究に加え、TOEFL対策と一般教養の英語での学習という意味で Coursesa というオンライン授業サイトを使うようになった。これ自体は日本でも全くできるわけだが、時間のある今のうちになんでもできることはやったほうが良いだろうとのことで始めた。無料で有名大学の授業が受けられるためのこれはおすすめ。

フィールドワークは機会を見つけては行っているがなかなかというところ。ただ、こちらのジプシー/ロマ研究者にロマの学生とのインタビューをセットしてくれないかとの問い合わせを試みたりする。

2. 生活の状況

春は過ぎてすっかり夏になってしまった。朝晩の風は涼しいが日中は半袖でも汗ばむほど。寮はエアコンがないためキャンパスに場所を見つけて勉強したり。フィンランドからのルームメイトが5月末で帰るということで一緒にワインで有名なエゲルという街へ国内旅行をした。ワインのテイスティングをしたり城跡に上ったりした。ハンガリーワインは本当に美味しい。以下の写真はその時のもの。街並みと青空が綺麗。

Erasums の学生のための Farewell ディナーもあって、6月初めに帰る予定の友人も多く、だんだんと終わりのムードになっている。特に後期はあっという間に過ぎてしまった。まあでも色々な人と出会えたし結構満足している。自分は8月末までハンガリーもしくは近隣諸国にいる予定のため、残りの時間を有意義に楽しめればと思っている。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/06/01 ～2017/06/30 デブレツェン大学)

1. 勉学の状況

2 学期続けて履修していたハンガリー民族誌についての少人数授業は第 2 週で終了した。総括すると、この授業が自分にとってどれだけ多くの学術的な知識をもたらしたかは分からない。しかし、学ぶ環境、英語での授業、ディスカッションという副次的なものを含めるとそれなりの成果はあったと思う。少なくとも自分の英語力、コミュニケーション能力などは間違いなく向上した。

最も本来の目的である卒論論文のための調査は留学前に想像していたよりは出来なかったが、多数の英語論文を時間かけて読む機会になったことに加えて、手持ちのデータから考えられることを人類学理論と結びつけながら分析し、論文を完成させるための視座を獲得することができた。

7 月 8 月と授業はないが卒論のための参考文献読み込み、機会を見つけてのフィールドワークを続けたい。

8 月には所属学科の博物館実習があるため、それに参加しようかと考えている。

2. 生活の状況

10 か月あまり過ごした寮は観光客の滞在などに使われるらしく、6 月末で出なければならなかった。荷物をまとめていたが来たときの何倍にもなっていた。10 か月間生活したことが実感された。出発する日の朝、同じフロアのスペイン人の友達に挨拶をしに行った。いくら facebook などで連絡が取れるとしても寂しいものである。

寮を出てからは友人宅に居候しながら旅行、フィールドワークなどを行う予定である。日本が恋しいことはほとんどないが、同じ時期に留学していた千葉大学の友人、こちらで知り合った留学仲間が本国に帰り、楽しそうな写真を SNS に上げているのを見ると自分もすこしだけ帰りたくなる。



出るとき撮った寮の部屋の写真。狭く見えるが 10 か月住むのには十分な広さだった。